

KBS京都「京bizX」

竹内キャスター

京都経済の未来を語る

第5弾

株式会社京都銀行 取締役相談役

柏原副会頭



京bizXコラボインタビューの第5弾。今回は、インバウンド観光客で賑わう京都観光や、30年を迎えたけいはんな学研都市の振興など、幅広く活躍されている柏原副会頭に竹内キャスターがお話を伺いました。

京都の特性を踏まえ、長期的視点で「国際観光都市・京都」を目指す

〈竹内〉

多くの外国人が京都を訪れています
が、現在の京都観光の現状についてど
うお考えですか。

〈柏原〉

成長戦略の柱の一つとして観光政策が
進められており、この10数年で観光とい
うもの自体が急激に変化してきました。
日本では人口減少社会に突入し、バブル
崩壊後の景気後退で所得を余暇や娯楽に
回せなくなってきました。一方で、アジア
を中心に経済発展が進んで国民の所得が
増加している国では、観光先として日本
そして京都が選ばれているのだと思いま
す。インバウンド観光客を増加させるこ
ういう政策としては、成功しているのでは
ないでしょうか。

〈竹内〉

先日、京商として京都市に対して「京
都の特性を踏まえた観光政策の推進に
ついての要望」を提出されましたが、ポ
イントを教えてください。

〈柏原〉

主に、「違法民泊対策」と「宿泊税」の2
点について要望しています。
民泊自体を否定しているわけではな
く、問題はあくまで違法営業の民泊施設
です。宿泊施設の整備においては、高級な
ホテルばかりではなく安価な民泊施設も
必要です。高いところから安いところま
で、宿泊施設ごとに価格のバリエーショ
ンを設けることは、世界から観光客を受
け入れる国際観光都市として必要なこと
だと思えます。

次に宿泊税です

が、急増している観
光客による交通渋滞
の増加や市バスの混
雑など、通常の市民
生活に影響が出てい
る問題を解決するた
めの財源として、必
要だと考えていま

す。同時に、短期的な課題解決だけではな
く、将来の京都観光をどうしていくのか
という長期的な方針・政策のもと、京都が
国際観光都市として機能するために有効
に活用するべきであると思います。

〈竹内〉

京都市における宿泊施設の整備状況
を数年先まで見通すと、2020年の
東京五輪の頃には十分な客室数を確保
できるようです。

〈柏原〉

数年前には、京都で宿が取れない、取れ

研究施設の集積により世界をリードする イノベーションが生まれる

〈竹内〉

話を「けいはんな学研都市」に移しま
す。学研都市の開発がスタートして30年
の節目となりましたが、関西文化学術研
究都市推進機構の理事長でもある柏原副
会長としては、これまでを振り返ってみ
てどのように感じておられますか。

〈柏原〉

学研都市の整備にあたっては、地理的
な環境が研究に適しているかどうか、研
究をサポートする交通網が整っている
か、そこに住む研究者の生活が充実して
いるかという、いくつかの重要な要素が
整うと、まち全体が活性化します。けい
はんな学研都市の場合は、民間が中心と

なって開発に取り組んだことで、研究施設の集積と交通網の発達がうまくかみ合い、理想的なまちづくりが進みました。バブル崩壊やその後の不況という厳しい経済状況を経て、近年は景気回復の影響を受けて大きく整備が進んでいます。

けいはんな学研都市が立地する地域は、津波と地震という日本における2大自然災害に強いという利点があります。また、京都をはじめ周辺には多くの大学・研究機関があり、そこには多くの研究者が在籍していることから、学研都市を基盤として企業と大学・研究者が有機的に連携することができま。世界をリードする研究が数多

経営・人生ともに「鉄壁の守り」を貫く

く生まれるよう、引き続き整備に力を入れていきたいと思えます。

研究施設が集積することで開発スピードが上がり、国内だけでなく世界との競争においても大きなアドバンテージを持っていますが、特に注目している研究分野を教えてください。

iPS細胞研究や脳科学、創薬などの「医療分野」、世界的な人口増加に対応するための「食糧問題」、持続可能社会をつくる

ための「エネルギー問題」、そして最適化社会を実現するロボットの基礎となる「小型モーター」に関する研究に注目しています。特に医療に

関しては、最も実用化に近いところまでできており、高齢化社会における重要性はますます高まっていくでしょう。また、高効率・高出力の小型モーターの開発により、社会のオートメーション化・ロボット化が一層進むのではないかと考えています。学研都市から多くのイノベーションが生まれ、社会の変革が進むことを期待しています。

〈竹内〉

マイナス金利政策が続いています。が、地域の中小企業を支える銀行としてこれをどうお考えですか？

マイナス金利は、景気浮揚のための一時的な「劇薬」であるにもかかわらず、常用薬になってしまっていることが大きな問題です。日経平均株価はバブル期の水準にまで上昇しましたが、長期間にわたる大規模な金融緩和策の副作用も一部で表面化しています。マイナス金利による金融機

関の疲弊は、地元の中小企業にとっても大きな打撃につながります。出口戦略をしっかりと見据えた上で、金融政策を適切に見直していくことが必要です。

ご自身のお話も伺いたいと思います。これまでの人生で経験した失敗とそこから得られた教訓を教えてください。

細かい失敗はたくさんありますが、銀行家という職業柄、仕事の上ではあまり

大きな失敗はしていないように思います。最近は大企業において多くの不祥事が発覚していますが、「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉の通り、些細な不正でも世間では誰かが必ず見ていて、いつか自分に返ってきます。その上で、信用が第一の銀行経営においては、不祥事を起こさないような「鉄壁の守り」を貫くことが何より重要です。これは人生においても同じことが言えると思っています。



【京bizX】

毎週金曜日21:00～22:25 KBS 京都テレビにて放送中。

※このインタビューの模様は、1月19日の「京bizX」で放送されました。

